本能、科学、そして宗教(半): イスラ ム的 点

:

明:

自己 牲といった本能は科学的に 明不可能であり、ダ ウィンの自然淘汰 を覆すものです。 半:本能について、クルア ンは何と言っているか。

目:事イスラ ムの真 性を示す数々の 独命存在

より: A.O.

□ 4 Oct 2011

集日 24 Oct 2011

特に 猛な 物であるワニによる世 は、非常に くべき性 のものです。まず、ワニは卵の孵化のために地面に穴を掘ります。穴の中の温度は30°Cを超えてはいけません。 かな温度の上昇も、卵の中の生命の存 を かします。ワニは卵が配置される穴に し、なるべく日 の 所に卵を置こうと努め、卵が一定の温度を保てるように 々ならぬ配 をするのです。あるワニの一 は、冷たい水の上に 草で出来た を作ります。こうした手段にも わらずの温度が上昇した 合、ワニはその上に尿をふりかけるのです。

からの音にワニが 付かないと、子ワニは窒息することになるため、卵の孵化する瞬 が最も重要です。母ワニは卵に寄り添い を巧みに使って幼体を から取り出してあげます。ワニの は非常に 利で、すこし うと幼体を 付けてしまいますが、そういうことはありません。子ワニにとっての最も安全な 所は、母ワニの口の中にある保 膜であり、そこの中には6匹の幼体を 容することが出来ます。

ワニのような野生 物による子供への 心の注意と心遣いは、 者のみが生き延び、それ以外は打ち かされて びるという、 化 者が主 する弱肉 食 の 性の一例に ぎません。

自己 牲をすることで知られる他の 物に、イルカがあります。イルカは子が生まれたその瞬 から、多大な世 をして子を育てます。子イルカは生まれると、酸素の のために水面まで上がって来なければなりません。母イルカはそのことをきちんと自 しており、彼女の鼻先を しく使って子イルカを水面まで押し上げてやるのです。

出 の直前は、母イルカの きが著しく 化します。こうした理由から、分娩 には他の二匹の雌イルカが母イルカに付き添います。母イルカの傍らにそれぞれ一匹ずつが 佐役として常に 同し、血の いを嗅ぎつけて いかかってくるサメから、二匹が母イルカを守る任を引き受けるのです。

化 者たちによって「 物において められる 因であるが、完全には解明されていないもの」と定 された本能は、いかに 物たちを を建 する工学者へ、または子や を守る勇敢な兵士へ、さらには最も 猛な を子に して哀れみ深く しい生物へと豹 させるというのでしょうか?

事 、ダ ウィンもこの疑 に して答えることに しており、彼自身もそのことを提唱しています。彼はまた、 する に答えずにいました。彼の著である「 の起源」において、彼は以下の いかけをしています:

第三に、自然淘汰を通して本能が 得されること、または修正されることがあるのだろうか? 事 上、 解な科学者の へとつながった、蜂が を作る行 へと至らせる すべき本能については、何と言うべきであろうか? (チャ ルズ ダ ウィン、 の起源 205)

ダ ウィンによる「自然淘汰 」への疑念は かに正 なものでした。ダ ウィン自身も自然淘汰が道理に叶った 明ではないことを告白しましたが、 化 者の大多数は、未だこの虚 に着しているのです。

明 な意 をもって自然を 察することの出来る人 は皆、いわゆる弱肉 食のために生き物が冷酷、乱暴、 慈悲ではないことを て取ることが出来ます。逆に、生き物は 造主によって自己 牲をいとわないよう られているのです。

クルア ンの第16章68 では、このように述べられています:

天と大地、そしてその のあらゆるものの主である「神」は、果てしなく慈悲深く、たびたびお赦しになる、全生物の支配者です。ダ ウィンには 化 という 野をもってしても明することの出来なかった 物の本能は、 には神によって全生物に授けられたものなのです。

自然界における全生命は神によって 造されました。つまり全生物は神の御意によって その存在がもたらされ、かれの御意に沿った行 をするのです。生き物が子に して示す 自己 牲の行 、思いやり、情け深さは神の御名「慈悲深き者」の 示に ぎません。このことは第16章7 において 示されています:

????????????????????????????

また、 言者もこのように述べています:

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/256

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。